

CONTENTS

- ① 新年ご挨拶
- ② MICニュース
ISO/TS16949:2002認証取得第一号
ISO14001最近の動き
SpecialEssay「顧客満足的一面」
- ③ 連載よみもの
MICリレーエッセイ
連載読み物「環境とISO14001」
- ④ 審査の現場から
お客様紹介
(愛媛県新居浜市)
新連載「QC7つ道具」
- ⑤ お客様からのお便り
ISO14001認証にあたり
(長岡実業株式会社)
認証取得後の感想
(ナビタス株式会社)
- ⑥ 研修コースのご案内
ちょっといっぷく
コースのご紹介/受講生からの
お便り

新年ご挨拶

代表取締役 坂井 喜好

皆様 明けましておめでとうございます

昨年は新潟中越地震、度重なる台風の襲来など自然災害が多発致しました。日頃顧みることのない自然のエネルギーの大きさに改めて思いを致しました。まだまだ復興の目処の立っていないところもあり、この紙面をお借りして、被災された地域の方々々に心よりお見舞いを申し上げますと共に一日も早いご復興をお祈り申し上げます。



さて、年頭にあたって、従業員の皆様、検査員、審査員の皆様、アライアンスの方々、そして全てのお客様にこれまで厚い情をもって弊社を支え創造して頂いた事に、心より感謝申し上げます。

本年も私たちの心構えは今まで通り、Moodyの憲法である(Vision and Mission)「私たちが模範となってお客様の更なる事業の成功に付加価値をもたらす触媒として尽くす」ということには変わりはなく、この「自分たちはどうあるべきか」に更に集中し、架けるはしごの場所を間違わないよう留意し、最終目的地である「こんな素晴らしいスタッフを持ったこと、Moodyで働くこと、Moodyで検査や審査してもらったこと、これらを誇りに思うとお互いに言えるよう、言われるようになること」に向かって邁進したいと思います。

本年も皆様に、よりご満足いただけるサービスを提供できますよう一層の努力を重ねて参る所存であります。変わらぬお引き立てを賜ります様何卒よろしくお祈り申し上げますと共に、ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

最後に皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げ新年のご挨拶とさせていただきます。



発行

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
大阪事務所
〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14
住友生命新大阪北ビル13階
Tel: (06) 6150-0571 Fax: (06) 6150-0575
http://www.moodygroup.co.jp/mic_index.htm

祝 ISO/TS16949:2002 認証取得第一号

弊社は、皆様におなじみのISO9001やISO14001をはじめとする様々な認証登録を実施しており、ISO/TS16949:2002もそのひとつです。ISO/TS16949:2002は、TS2とも呼称される自動車部品メーカーを対象とした品質マネジメントシステム規格です。この規格は、ISO9001:2000に自動車業界で必要とされる様々な品質マネジメント手法を追加、規格化したもので、自動車メーカーの厳しい品質要求に対応可能なハイレベルの品質マネジメントシステムの構築が要求されます。それだけに適切に運用すれば寄与するところが大きい規格であると言えます。世界の自動車工業界でのTS2認証登録企業の認知度は高く、特に海外の自動車メーカーと取引を模索する企業や、現在取引のある企業は、TS2の認証登録を顧客より要求されることが大いに予想されます。



ムーディーグループはすでに世界中でTS2の審査を実施しておりますが、この度本事務所における第一号として、ワシマイヤー株式会社様の認証登録が完了致しました。10月8日の授与式には、ワシマイヤー様から取締役の木下様並びに総務部長の柳瀬様が出席され、弊社代表取締役の坂井より認証登録証が手渡されました。独力でTS2の認証登録を実現したワシマイヤー様は、自動車レースの最高峰F-1へも最高品質のホイールを提供しているグローバル企業で、TS2の認証取得を機に更なる飛躍が大いに期待されております。

弊社は審査を通してワシマイヤー様の更なる発展を支援していく所存です。誠におめでとうございます。

ISO14001 最近の動き

ISO14001関連で大きな動きが2つありましたので、簡単に紹介させていただきます。

ISO14001:2004年版の発行

ISOからISO14001の2004年版が昨年11月15日に発行されました。尚、1996年版から2004年版への移行計画については、その指針(案)が国際認定機関フォーラム(IAF)において承認投票に入っています(平成16年12月1日現在)。詳細は、(財)日本適合性認定協会(JAB)のHP (http://www.jab.or.jp/news/ems/topix_2004/ems_20041025_5.pdf) をご参照下さい。

ISO14001のJAB、UKAS間での相互承認

従来、ISO14001はJABとUKAS他で相互承認されていなかったため、JAB以外のISO14001は国や地方公共団体の評価、補助の適用対象外となっているものが一部ありました。しかし、昨年10月9-11日に南アフリカのケープタウンで開催された第18回国際認定機関フォーラムにおいて、JAB、UKAS等を含む20以上の認定機関がそれぞれのISO14001を、ISO9001同様に相互承認することに合意しました。

Special Essa J

顧客満足について的一面

審査部長 成毛 秀雄

12年前、私は、約1ヶ月の日程でアメリカ北西部の都市にある産業用機器製造メーカーでの立会い検査をするためにアメリカに出張に行きました。その時のちょっとした思い出についてお話し致します。

出張中のある日、特にその日はストレスが多く、早く休みたいという思いでホテルに戻った私は、普段着に着替え、ビールでも飲みながらゆっくり夕食を楽しもうとホテルのレストランへ入りました。レストランは空いており、居心地のよい雰囲気でした。しかし、ビールとステーキを注文した私に、ウェイトレスは当惑した顔で一瞬沈黙し、ためらいがちにこう言ったのです。

「申し訳ありませんが、あなたのID(身分証明書)を見せて下さい。」

私はことばの意味がよく飲み込めず、注文を繰り返しましたが、ウェイトレスはただIDの提示を要請するだけです。その時私が持っていた身分証明書と言えば日本の運転免許証だけでした。

「仕事を終え、これからゆっくり夕食を取ろうとしているだけなのになぜ身分証明書を見せなければならないのか?」「なぜ免許証を取りにまた部屋へ戻らなければならないのか?」

そんなことを考えているうちに、だんだん不愉快になり、他のレストランを探そうと考えた私は、

「これから食事をしようというのに、なぜ身分証明書が必要なのですか。食事の前に運転免許証の提示を求められたのは生まれて初めてです。そういうことなら注文をキャンセルしたい。」と言いました。

何か問題があったと察知したのか、客席の責任者がテーブルにやって来ました。私は今までのことを説明し、ここで夕食を取る気がなくなったので注文をキャンセルしたいと申し出ました。責任者は、清楚な紺のスーツを着た

女性で、私の目の高さまでかがみながら、

「お客様、キャンセルはなさらないでください。不愉快な思いをされたことについては誠に申し訳ございませんでした。しかし、ぜひご理解いただきたいことは、当州の法律により未成年者に酒類を提供できないことになっており、彼女は、法律によりお客様が未成年ではないという証明を求めただけなのです。その義務を果たさなければ、彼女自身が刑事責任を問われることになるからです。」と答えたのです。

「未成年?30代後半で、二児の父親でもある私が!」驚いた私は、

「よく見てください。私が未成年に見えますか。」と問いかけました。

「近くでお話していると分かります。ただ、当レストランも含め、この辺りの地域では東洋の方の訪問は珍しく、年齢を推定することが難しかったのだと思います。」

私はこの責任者の話が理路整然とし、非常に説得力があると感じ始めてきました。と同時に顧客と問題があったときのマニュアル通りに話しているな、とも感じていました。すでにレストランに入ってから相当の時間が経過し、空腹も絶頂となった私は、


「よく分かりました。私も誤解があったようです。しかし今日はキャンセルしたい。」と静かに話すと、責任者は、やさしく、しかしゆるぎない口調で、

「どうかキャンセルはなさらないでください。」と繰り返すのです。声にも目つきにも真摯なものを感じられました。なぜこんなに真剣なのだろう...

次の瞬間私は悟ったのです

MICリレーエッセイ⑤

今号は、中国地区広島からのエッセイをお楽しみください。次回は、九州地区福岡からお届けします。



中国地区
広島市
宮島

From 中国地区担当
藤田 政雄

日本列島の南西部に位置する広島は、温暖な気候と瀬戸内海・中国山地という豊かな自然に恵まれ、「原爆ドーム」「厳島神社」とふたつの世界遺産を有しております。現在、広島といえは日本の一地方都市ではなく、世界平和の聖地として認識され、「国際平和文化都市」としてさまざまな取り組みを行っております。

県内の経済といえば主力の鉄鋼、自動車関係や電気機器の輸出が増加するなど、輸出関連を中心に持ち直しの動きが見られ、個人消費も大型小売店、電気量販店の出店が続き、一部に明るい兆しも見え始め、全体的に緩やかに伸びている様子です。

ISOに目を向けると、広島企業のISO14001取得比率は全国平均を上回っており、県内の企業は、環境に取り組む意識が高いと言えます。私はここ広島を中心に日夜、中国5県を走り回り、ISOの認証活動を通じて企業、社会へお役に立てるよう、より一層有意義な提案活動をしていきたいと思っております。

連載「環境とISO14001」⑤

第5回 「著しい環境側面を決定する」

MIC 環境主任審査役 郷古 宣昭 Nobuaki Goko

前回は「環境側面」の洗い出しについて話しました。今回はそれら環境側面群中から重要度評価をする、「著しい環境側面」の決定方法についてお話します。

実は、著しい環境側面の決定方法について、規格は何も規定していません。それゆえ、その組織に相応しい方法を用いればよいのですが、なぜか多くの組織は版で押したように同じような手法を採っており、それがあまりうまくいってないようですので、あえて解説します。

洗い出した環境側面ごとにその影響を与える対象を特定します。多くの場合、大気、水質、土壌など典型7公害に分類しています。これは間違いではないですが、環境影響ですので、「地球温暖化」「オゾン層破壊」「酸性雨」「生態系破壊」「ヒトの健康」「快適性」「廃棄物」などとする方がよく、分類すること自体、環境側面と環境影響の関連を理解する上で好ましいことです。

次にスコア(点数付け)ですが、これは大変難しく、問題の多いところですが、そもそも、影響を及ぼす対象(標的)によって異なるものであり、厳密な定量化を目指すなら、地球温暖化であれば二酸化炭素排出量に換算し、オゾン層破壊であれば代表的な代替フロンに換算し、酸性雨であれば二酸化イオウに換算し、ヒトの健康であれば化学物質ごとに毒性因子を乗ずる必要があります。しかしながら、これらの計算は簡単ではありませんし、用いるデータベースでも異なります。それゆえ、法律や利害関係者の関心を考慮し、他の組織と比較して、3 - 5段階ぐらいで評価してよしとされます。ただし、地球温暖化については昨今の関心事ではあるので、ガス・電気・石油類を通して二酸化炭素換算することは意味があるでしょう。これらの換算係数は環境省のエコアクションプログラムや環境家計簿ガイドの中で公表されています。

さて、そのスコアの評価法としてよく見られるのが、「起こりうる可能性」に「検出の可能性」を加え、「結果の重大性」を乗ずるというやり方です。この方法は品質管理で行われている「故障モード解析」を真似たもので、将来起こるかもしれない環境事故を視野に入れたものとして意味があります。問題はこれが環境汚染に関する環境側面にしか適用できないにもかかわらず、資源の消費や間接側面にも適用して混沌を招いていることです。資源の消費は使用量と枯渇度、間接側面は影響の大きさ自体を考慮して環境汚染とは別個に評価すべきでしょう。また、「検出の可能性」は「管理の状態」と捉え、本来取り上げられるべき著しい環境側面が評価の過程でふり落とされてしまった例を数多く見てきております。たとえ、管理の状態が良好であっても、作業のミスや、設備の故障、停電や地震などで重大な汚染事故を起こすこともあり、リスク把握を見落とす恐れが出てきます。私は単純に「起こりうる可能性」と「結果の重大性」だけで十分であると思います。さらに、「法規制」「方針」「過去の事例」は「結果の重大性」や「起こりうる可能性」を評価する際には参考とすべき事項ではありますが、これらを無理に点数化し、複雑な算定式を組み立てることは避けるべきです。

このようにして決定された著しい環境側面はその組織の環境上の姿を示すものですので、文書化され、組織の全員に認識され、組織の内外で状況変化が生じたら見直されていくべきものです。また、著しい環境側面として決定された事項の全ては、目的・目標、運用管理(監視)事項、あるいは緊急事態の形でマネジメントシステムの中で取り組まれることが望まれます。

次回は、ISO14001:2004年版の改定の骨子を解説します。

新居浜市は、愛媛県の市町村では初めて、ISO14001の認証を取得され、2004年10月28日、同市役所で認証登録証明書の授与式が行われました。式典では、佐々木龍市長(右下写真 右)に弊社社長坂井喜好が「引き続き事務事業を見直し、改善して下さい」とスピーチし、証明書を手渡しました。

新居浜市は、本庁舎における事務の省資源化を目指し、コピーなどの用紙、公用車のガソリンなどの燃料、昼休みの消灯などの電気の使用量削減に取り組んでおられます。また、エコ商品の購入、子供エコクラブの活動、合併浄化槽の設置などの環境施策も積極的に進められています。

昨年の夏、日本全土に災害の爪あとが残りました。新居浜市も例外ではなく、集中豪雨、台風の襲来により、土石流や崖崩れが発生し、死者、家屋の全半壊など、過去にない大きな被害がでました。市職員の皆様は休日もボランティアとして復旧作業に参加しながら受審されたのです。ロシアが批准を決定したことから、異常気象の原因となるCO₂を含む地球温暖化ガスの削減を

目指した京都議定書が今年2月にも発効されます。これに伴い環境省も省エネ法改正、環境税導入の検討等の積極的な動きを見せており、環境問題はその重要度が益々増えています。

環境基本計画を推進するために、新居浜市が相次ぐ災害発生の中、ISO14001の認証取得を進められたのには、「異常気象による被災は、もう繰り返すな!」との意思が感じられます。しかし、環境保全活動は、行政・市民・事業者の三者が協働して取り組まないと成果は上がりません。今回、行政である新居浜市が、環境問題に対して積極的な一歩を踏み出されたことにより、地域ぐるみで環境保全への取り組みが、今後、ますます盛んになってくると思われます。



<http://www.city.niijima.ehime.jp/>

QC7つの道具 その 「散布図と層別分析」

「特性要因図」「パレー図」に続き、今回は「散布図と層別分析」をご紹介します。

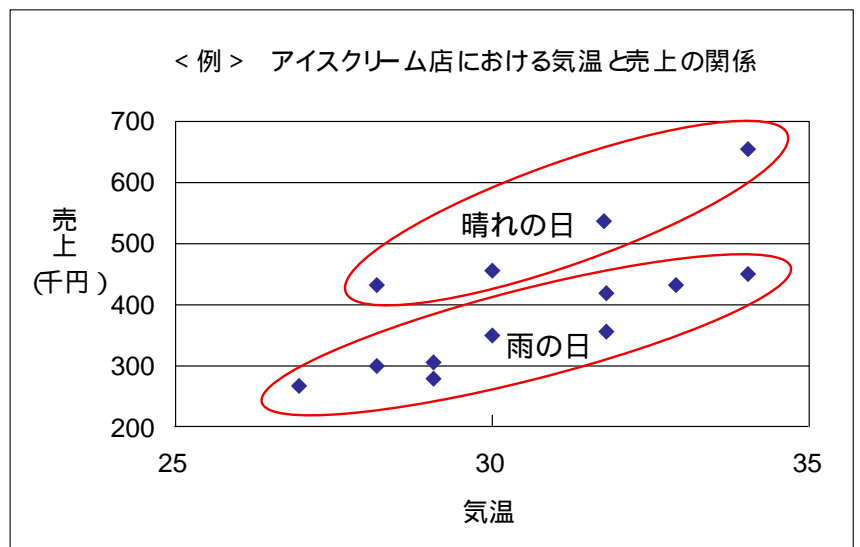
散布図とは、対になった2つの値をタテ軸・ヨコ軸にとって、1組ずつデータを打点し、データの間を見える図のことで、例えば「不良率と原料の純度」、「営業訪問の数と成約率」といった種々のものが作れます。

散布図に限りませんが、数値の羅列だけを見ていると解らないことも、図にしてみると一目瞭然の場合がありますので、ぜひ、データを図にして見てみてください。

また、全てのデータを図にして関係が見えてこなかった場合も、そのデータのある特性に着目して、いくつかのサブグループに分け



てみると相関関係が見えてくる場合があります。このようにデータを分けてそのサブグループごとに分析することを層別分析と言います。例えば、さまざまな年代や性別の人たちが固まっているデータでは、特徴が表れていなくても、女性だけ、20代だけという具合にデータを絞って図を書き直してみることで、何らかの特徴がでる場合があります。原因解析には、図にして鳥の目で見、それで解らなければ、また、鳥に戻るといった作業も必要です。今回は、「チェックシート」についてご紹介します。





お客さまからのお便り



ISO14001認証にあたり

長岡実業株式会社 (ISO14001認証登録)
常務取締役 北村 秀夫

当社は文化元年(1804年)に、薬種天産物の問屋として創業し、それ以来国内外に仕入・販売のネットワークを築いて参りました。昨年創業200周年という会社の大きな節目に、ISO14001の認証を取得できた事は、社史に大きな功績を残す事ができたと自負しております。

上述の通り、当社は自然環境に左右され易い天産物を取り扱っており、それらの恩恵を受けて活動できる企業として、日頃から環境問題には強い関心を払っておりましたが、組織として環境に対する更なる共通認識が必要と感じ、2003年8月、社長の号令の下にISO14001の認証取得に会社全体で取り組む運びとなりました。

開始直後は推進メンバー全員が暗中模索の状態でしたが、コンサルタントの方々の温かいご支援と的確なアドバイスにより、最終的には従業員全員がEMSの意味を理解する事ができました。社長の号令から約1年、スケジュール通りに認証取得できたのはEMS構築のベースとなる環境側面の抽出及び絞込みに時間と労力をかけた事が秘訣であったと感じております。また、MICの審査

員の方々からは、審査で当社にとって非常に有意義な懸案事項をご指摘頂き、心より感謝しております。

運用開始から早8ヶ月が経ち

ましたが、EMSが日常業務の中に完全に浸透しており、従業員の環境に対する認識は、日常会話の中に環境に関する話題が出る程、飛躍的に向上していると思います。

認証取得を終え、今後はEMSという当社の大きな財産を従業員一丸となって上手く運用していこうと思う所存であります。

末筆になりますが、当社の環境に対する意識をPRさせて頂く場を与えて頂き誠に有難うございます。



ISO認証取得後の感想

ナビタス株式会社 (ISO9001:2000/ISO14001認証登録)
品質保証部 品質保証グループ 春木 浩子



当社ナビタス株式会社は、大阪府堺市に本社を構える特殊印刷機械のメーカーです。全従業員75名の小さな企業ですが、平成元年に株式公開(現ジャスダック)

を行っており、創業以来、特殊印刷、表面加飾を「装飾の文化」「彩りの文化」と考え、世の中に潤いをもたらすことで社会に貢献することを目標に、新技術の開発に取り組んでおります。水と空気以外は総ての物に印刷が可能との発想で技術の展開を行っておりますが、特に曲面等の複雑な表面への印刷は当社の得意とする技術で、この分野における「ワンストップショップ」、つまり特殊印刷のコンビニとして、印刷の川上(前処理工程)から川下(後処理工程)までを網羅できる製品・商品を提供しています。

そのような環境の中で、品質・環境共に、外部の力を借りずに独自でシステム構築に取り組み、今年2月にISO9001の認証を頂き、引続きISO14001に挑戦し、10月に認証を頂きました。

認証取得の作業は当然、紆余曲折はありましたが比較的スムーズに行えたと思っております。その理由としては、

約40年の物づくりの経験を重視し、全社で徹底した現状把握を行い、全員が品質マネジメントシステム構築に参画したこと
9001品質マネジメントシステムを検討する段階から、14001環境マネジメントシステムを見据えて当社のスタンスを明確に全社員に伝え、品質マネジメントシステム構築に当たっては、社員教育と

現状把握を全社員で徹底したこと

品質マネジメントシステムの認証取得後、全員の熱のさめない内に環境に取り掛かったことが挙げられると思われま

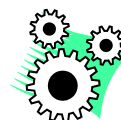
す。

「地球環境を守る・地球生命を守る」という基本理念に立つ環境問題については、女性の方が関心が高いとの情報から、社内の環境システム構築の事務局、環境委員会及び環境内部監査委員会の運営について、私のような若輩社員が登用され取りまとめを任せられました。抜擢された当初は、私自身、意気込みとは裏腹に「本当に私でいいのか?」、社内からは「任せて大丈夫かな?」の心配がございましたが、これが反って全社の「あせりの気持ち」となり頼りない私を助けてくれる力となって、全社の協力を得ることができたことに職場の皆さんに感謝しております。

当初、自分では努力していたつもりでも、不安が付きまわっておりましたが、MIC大阪事務所開催の内部監査員研修や情報交換会に参加させて頂き、理解を深めて行くことになりました。特に、情報交換会への参加が大きな自信に繋がったと思います。

当社も「QMS」「EMS」の認証取得で新たな改革の第一歩を踏み出しましたが、全員がマネジメントシステムを基軸にして、普段の業務を展開すれば、大きな改善・改革に結びつくことに気がつきつつあり、大きな一歩と受け止めております。その中でも、ISO14001の審査でご指摘頂いた「山に登るなら最高の山に登ろう」「Practical & Effective」「予防処置の重要性」等を当社に当てはめて考えますと、「彩り豊かな将来」に向かってわくわくする気が致します。

最後になりましたが、審査員の先生方、MIC様、ご指導頂いた皆様に感謝しております。ありがとうございました。今後とも宜しくご指導下さいませよう御願ひ申し上げます。



(P2ページより)

もし、ここでキャンセルしたら、今日のこの出来事は、不愉快なこととして一生私の心にしこりとして残るに違いない。このレストランにはもう一生来ることないかもしれないが、それでも不愉快な思い出として残してほしい。レストランもお客様には気持ちよく帰ってもらいたいだろう。」

その瞬間、ストレス、不愉快さ、何もかもが突然フツと消え、また空腹感を感じ始めました。

「ああ、もう腹ペコです。ビールとステーキをお願いします。」

私は、にっこりしてもう一度注文しました。

「かしまりました」とウェイトスもにっこりとし、責任者の女性もすっと立ち上

がって、微笑みながら頷きました。

「もう運転免許証を見せなくてもいいですね。」

「もちろんです。」

今となっては、その時のビールやステーキがおいしかったかどうかは正直覚えておりません。しかし、その夜、大きな満足感と何か感謝に似たような気持ちで食事を終え、レストランを後にしたことはしっかりと心に刻まれています。やはりキャンセルはしなくてよかった！

「本当の顧客満足」とはどういうものなのか、改めて考えてみられてはいかがでしょうか。



2005年初号ということで、今回はISOから離れ2005年にちなんだお話をさせていただきます。今年の干支は乙酉(きのとどり)「乙」とは草木の幼芽のまだ伸長し得ず屈曲の状態、酉は縮む意で、万物が成熟しきりむしる縮む状態を表しているそうで、物事を進めるのに確かな方法をとった方が良い年と言われています。干支はご存知の通り十干(甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸)と十二支(子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥)を組み合わせたもので、60組で一巡しますが、一つ前の乙酉の年は1945年の終戦の年でした。今年、中部国際空港の開港や愛知万博、香港ディズニーランドの開業などさまざまなイベントが予定され、また、特殊相対性理論で有名なアインシュタインの没後50年、そしてその特殊相対性理論など3つのテーマに関する画期的な論文が発表されてから今年でちょうど100年になるそうです。大きな被害をもたらした阪神淡路大震災から10年目の年にもあたり、何はともあれ平和でよい一年にしたいものです。皆様方のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

研修コースのご案内

MICでは、これから認証取得を希望される企業や、既に導入され、さらに効果的な運用を目指す組織の皆様方、また、資格取得を目指しておられる個人の方にも役立てて頂けるよう、各種研修コースをご用意しております。2005年度の研修スケジュールについては、同封の案内をご覧ください。

審査員研修コース

- ISO9001 2000 (6日間、給付金コースは6日間)
IRCA認定 IATCA基準 審査員研修コース
 - ISO14001 (現場研修付き)
EMA認定 審査員研修コース (5日間、給付金コースは6日間)
- 開催地】東京・大阪

内部監査員研修コース

- ISO9001 2000 (2日間)
 - ISO14001 (2日間)
- 開催地】東京・大阪

～ 受講生からのお便り ～

環境審査員コース(2004年10月) 受講
中佐 錦

環境マネジメントシステム審査員コースを受講して

学生の頃から、地球環境問題に興味があり、大学では環境科学を専攻しました。社会に出てからは、ソニーEMC(株)長野テック(パソコン製造)にて環境ISO事務局を5年間勤めました。そして今では環境ISO研究会名古屋にて、ISO取得支援に携わっています。

MICの統合審査にオブザーバー参加したご縁で、こちらの環境ISO審査員研修を受講しました。ISOの研修という、つめこみ型、というイメージだったのですが、実際に受けてみた印象は、事例をもとに解説して下さい大変わかりやすかったです。このことは、他社にない特徴かなと思います、非常にラッキーだったと思っております。

現在、審査業界の中では女性審査員は少ないと聞いております。研修に参加すると決めた時(私も女性です)、少し躊躇したのですが、この資格は肩書きだけではなく中身のある内容で大変受けて良かったと思っております。ISO運営に係わる女性の皆様もどんどん挑戦することをお勧めします。年代を問わず、環境問題に関心がある人は多いと感じています。でも、中々表立った行動ができず、水面下で思っているだけ...という人も多いです。環境ISOについても、ムダ、面倒...などのイメージを持ちながら活動している会社もまだあると思いますが、さらに意識を高めて活動しやすい環境ISOを広めるような仕事をしたいです。

ムーディー・インターナショナル・サーティフィケーション株式会社
<http://www.moodygroup.co.jp>



東京本社

〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-4-2日本橋ビル4F
TEL:(03)3669-7408 FAX:(03)3669-7410
E-mail:mi-certification@moodygroup.co.jp

大阪事務所

〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原4-1-14 住友生命新大阪北ビル13階
TEL:(06)6150-0571 FAX:(06)6150-0575
E-mail:mic-osaka@moodygroup.co.jp